

KIZUNA



きずな

No. 147
2019.6.1

日本カトリック海外宣教者を支援する会

卷頭言

神様に見守られながら

東京教区成城教会信徒 後藤由美子

「海外宣教者を支援する会」の運営委員となって一年になりました。私よりも華奢なシスターたちがとてもハツラツと元気にご活躍なさっていらっしゃるお姿に感銘を受けました。

小さな頃、教会は困っている方々を助ける所で、神父様やシスターたちがそのために一生懸命働いていらっしゃると漠然と考えており、そのような教会に憧れを抱くようになりました。お正月には神社に初詣、お悔やみごとはお寺でという無宗教の家庭で育ちましたので、教会は程遠い存在でした。それを近づけてくれたのは我が子の誕生でした。聖書の中から名前をいただき、幼稚園はカトリック幼稚園に入園させていただきました。

その幼稚園には隣接する教会(東京・高幡教会)と修道院があり、シスターが園長先生をなさつており、教会の司祭は今は亡きコンスタン・ルイ神父様(1991～1998年主任司祭・パリミッション)でした。初めての社会に出て、大きな身体で泣いてばかりいた息子を見てオロオロする私に、神父様も園長先生も「大丈夫。子供はこうして大きくなっていくものですから見守つてあげましょう」と、言ってくださったお言葉を今でも忘れません。お陰様でその後、息子は楽しい幼稚園生活を送ることができました。

♥♥もくじ♥♥

卷頭言	1
第72回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	4
ザメッセージ	10
ECHO	10
こんにちは!お久しぶりです	10
新入会員・事務局より	12



私もミサにもあずかり、温かいよい印象を抱きながら、ほんの少し教会に触れさせていただきました。教会は卒園と同時に疎遠になってしましましたが、息子が中学になった頃、プロテスタントの友人の付き合いで、時々教会に行くようになりました。友人數名とCCWA（社会福祉法人基督教児童福祉会 当時の名称）の紹介で、小さな男の子を支援することになりました。そのような団体があることすら知らなかった私は、息子が友人の勧めとはいえ、毎月お小遣いを出し合って、交代で手紙を書いている姿をとてもうれしく思いました。どのような団体でどのような活動をなさっているのか調べてみると、世の中には学校へも行けず、食べ物もなく、親の手伝いをして働いている子どもがたくさんいる事を知りました。同時に、自分たちにそのような苦労がなく幸せである事にも気づかせてもらいました。

親の反対もあり、私が受洗したのは、その後ずっと遅くでした。大反対をしていた母も、私が一生懸命に通う教会には何かよいことがあるに違いないと、関心を持つようになりました。教会にも一緒に行くようになり、しかも一緒に洗礼を受けることになりました。そして母なりに充実した信仰生活を送り、1年半後に母は神様の元に帰りました。神様はご存じでいらっしゃって、よい時期に受洗させてくださったと感謝しております。

息子が作ってくれた教会への一歩を、私はこれから神様と共に歩んでいきたいと思っています。そして今、その時期がきて、神様に見守られてお手伝いが出来ているように思います。そして何人かのシスターたちにもお会いし、お話を聞きましたが、小さい頃に抱いた憧れは決して楽な事ではなく、厳しい宣教活動を送っていらっしゃる現実を知りました。困難な場所、環境の中で活動なさっているたくさんの宣教者の皆様が、これからもお身体に気をつけてご活躍なさいますことを、また「海外宣教者を支援する会」がたくさんの方々にご協力をいただきながら発展していくことを願っております。

神様はいつもお側で見守ってくださり、よい時期にすべきことをお与えくださっていると思います。現地から一時帰国のシスターたちのあのハツラツとした笑顔に、お会い出来ますように、これからも微力ながら心を込めてお手伝いさせていただきたいと思います。



□■□ 第 72 回運営委員会議事録 □■□

日 時：2019年3月16日（土） 15:00～17:00

場 所：六本木・聖ヨゼフ修道院 2階会議室

議 事

I. 「きずな」146号について

- ・巻頭言が3ページに及んだが、読み応えがあった。
- ・相変わらずお便りや写真は少なかったが、14ページとなった。
- ・クリスマスカードを載せると、世界と繋がっている感じがあってよいという感想があった。

II. 「きずな」147号について

巻頭言は新しく運営委員となった後藤由美子さん（東京・成城教会所属）に依頼することになった。

III. 援助申請審議

1. カンボジア、コンボンルアンのJLMMの井手司さんより申請：コンボンルアンの水上村にある、学校、運動公園として使っている施設の土台の防水費として \$1,200、運動公園の竹取り替え工事（水中）\$2,800、運動公園建物土台修繕費 \$1,740など 合計 5,740 ドル(648,182円)の申請があったが、検討の結果、承認され援助を決定した。

●最近、援助の申請がめっきり少なくなっています。派遣される宣教者が減っていることもあるでしょう。また、援助が必要な場所であっても宣教者が忙しく、申請書類を作成する時間がない、ということもあると思いますが、小さなプロジェクトでもかまいませんので申請書をお送りください。

IV. その他

1. 会の案内パンフレットを2,000部印刷した。
2. 宣教者名簿…校正の段階。4月に発送予定。
3. 「きずな」の発送は、いつもの通り国内便は3月7日（木）瀬田の修道院で、17名で3,040通を発送した。海外便は8日（金）に事務局で4名で146通を発送した。
4. 今年度のお話を聞く会は10月5日（土）の午後に開催予定。会場は、四谷ニコラ・バレのホール。講演者は未定。
5. 運営委員の八幡とも子さんが、3月16日付で引退された。会発足当時（1982年）から関わり、2016年6月まで事務局代表としてご尽力いただいた。心から感謝申し上げます。
6. 12月5日の予定されている発送作業の後、発送ボランティアの方々へ日頃の感謝をこめてお茶会を開催し、運営委員も参加することになった。

次回運営委員会 6月15日（土）15時～



宣教者からのお便り



インド

◆ディマプール◆

初めてお便りします

メディカル・ミッション・シスターズ（MMS） 延 江 由美子

日本のカトリックの皆さま、こんにちは！私は、メディカル・ミッション・シスターズ（MMS）という修道会の延江由美子と申します。私共の修道会はこれまで日本での活動がなく、日本人の会員も私一人なので、ほとんどの方はご存知ないかと思います。私はかれこれ10年ばかりインドにおりましたが、ここ数年は東京を拠点にして毎年、数か月現地に赴くという変則的な修道生活を送っています。このたび、たいへん幸いなことに「日本カトリック海外宣教者を支援する会」とつながるご縁がありました。

今、この原稿をインド北東部で書いています。インドは多様性とあらゆる面での強烈なコントラストが象徴的な国ですが、その中でもこの地域は「インドであってインドではない」といつても、決して過言ではない特別なところでしょう。数あるインドのガイドブックにも取り上げられることはほとんどありません。本土とはわずかにつながっているのみで、ほとんどの領域がネパール、チベット、バングラデシュ、ブルータン、ミャンマーと国境をともにしています。そこには独自の文化と言語をもつさまざまな民族が、豊かで美しい自然の中で暮らしています。

その一方で、貧困のゆえの治安悪化、民族紛



争、基礎教育の不備といった社会的課題も絶えず、また地球共同体の存在を脅かす気候変動と、それに伴う自然災害、そして環境破壊の影響はここでも深刻な問題です。このような状況の中で、私たちは村の人々とシンプルな生活を共にしながら、医療や教育、経済活動の支援をしています。私の現在の役目は、vocation promotion (V.P.)、つまり会員の勧誘と、志願者たちに寄り添いながら指導することです。V.P.のために、あちらこちらへツーリングに



出かけることが多いのですが、そのおかげでそれぞれの地域によって異なる習慣や風習、そして日々の暮らしの中で、彼らがどんなふうに開けたり合いながら生活しているのかが少しづつわかつてきました。日本とはまるでかけ離れた現実のようですが、もしかしたら、かつては日本にも見られた光景だったのかも知れません。いつかお聞きいただけたら機会があれば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

カンボジア ◆コンポンルアン◆

水上村のご報告

日本カトリック信徒宣教者会（JLMM）
事務局長 漆原比呂志

日頃、水上村での活動にご支援をいただき誠にありがとうございます。今回は事務局から、プルサート州コンポンルアン水上村のご報告をさせていただきます。

この水上村は、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖上に位置しています。この村では1,100世帯、6,000人の人々が船の家で生活しており、約60%がベトナム人です。ベトナム人のほとんどは、数世代にわたりこの水上村で暮らしていますが、多くはカンボジア語が話せず、国籍を持たないといった理由で、公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっています。子供は言葉の問題から公立の学校へ通えない、などの多くの問題を抱えています。また、水上村での移動には船が欠かせないため、貧困家庭では、両親が漁などの仕事で船を使ってしまうと、子供たちは学校に行くことができないという現状も

あります。

そんな中で私たちの活動の受益者は、識字教室で学ぶ子供たち70名です。その子供たちが毎日通学船を利用して識字教室に通っています。教室では、午前中は3つのクラスでクメール語（カンボジア語）による国語や算数の授業を行ない、午後には、ベトナム語の読み書きなどの教室を1クラス行なっています。

また運動公園では、普段、立って歩くことが困難な小さな舟の家に住んでいる子供たちが、唯一走り回ることができる場として、多くの子供たちが学校の休み時間や通学船で下校するまでの放課後、縄跳びやサッカー、ダンスをするなど利用しています。水上村に住むベトナム人にとって、教会は心のよりどころであり、教会を中心とした識字教室や運動公園は、人々が集うコミュニティの場となっております。

「海外宣教者を支援する会」様から長年にわたり、通学船のご支援をいただき心から感謝申し上げます。人々が祈り、語らう場として教会がこれからもコンポンルアンの人々の暮らしの中核となり、子供たちが元気に学ぶことが出来るよう、これからも活動を続けてまいります。よろしくお願ひいたします。



カンボジア ◆プノンペン◆

読書室が再開されます

ショファイユの幼きイエズ修道会 橋 本 進 子

4月15、16、17日はクメール正月でした。前後しての約2週間、学校等はお休みになりました。昨年のクリスマス前後からスケジュールが入り混じって気ぜわしく、クリスマスや2019年の年始のご挨拶や感謝のお便りも申し上げませんでしたこと、お詫び申し上げます。カンボジアの今年の暑さは例年と違うのでしょうか。年中「暑い、暑い」と言って汗を流している私ですが、1週間ほど前から左腕に30cmの長さに「汗ぼ」の花を咲かせています。カンボジアに派遣されて14年目ですが、初めての体験です。体が「あつい、あつい」と言っているのでしょうか？

2018年度もご支援いただきありがとうございます。1月18日に\$3087.67、ご入金いただきました。各村の読書室や子供たちの世話をしてくれるスタッフの感謝の手当などに2019年1月から使わせていただいています。この4月から村の読書室が一つ増えました。カンポートの修道院から、車で1時間以上かかるチョンカチアン村に「平和の村」があります。身体に障害を持つ子供たちのデイサービスセンター、幼稚園、そしてエイズの患者の家があるコミュニティです。5年前にここにも一時読書室があったのですが、幼稚園が始まった時にその部屋を返上しました。この度新しい幼稚園園舎でモンテッソリー教育法による保育が始まったので、元の部屋が読書室として戻ってきました。

クメール正月が済んだら子供たちに使わせたい、という責任者ポー氏の要望に応えるために、書棚を一部修理、テーブルと椅子は園児たちが使っていたので落書き等がありました。暗いイメージを一新するため桃色と薄緑のペンキを塗りました。本の購入を始め教材の準備も始めました。あいにく車の運転で協力してもらっていたニアン氏が、免許の切り替えをするのに手間がかかり、1か月は運転休止。これはカンボジアで切り詰めて生活している皆さんを利用している車で、20名ほどが乗れるワゴン車です。3回ほど往復して読書室を正月前に整えることが出来ました。

ここ「平和の村」には身体に障害を持つ中高生が、下宿して学校に通っています。近辺にはまだ子供たちが大勢いると聞いています。週に数回英語の勉強もしています。一変した読書室で絵を描いたり本を読んだりして、多くの子供たちの学びの場となってくれることを祈ります。

ボリビア ◆サンタクルス◆

新しい支部での使徒職

サレジアン・シスターズ 漢 那 和 子

支援する会のスタッフの皆さまお変わりございませんか。先日、郵便物受けとりました。ありがとうございました。

私は今、新しい支部で使徒職をはじめています。「沖縄第一コロニア」です。以前何度か訪れていたことはありましたが、生活するのは初めてで、住んでみると気がつかなかったことが多々あることを改めて認識しているところです。



沖縄第一は、ボリビア人の中に日本人が住んでいるという感じです。教会は大きくて素晴らしいです。主任司祭は韓国の方ですが、スペイン語は上手で、若くて皆から好かれています。教会の名前は「サンフランシスコハビエル」です。

今この教会では一年のプロジェクトとして、ミッションを始めました。地域ごとに分かれて、家庭を訪問します。このミッションにはレデンプトール会の神父様が三人参加して、それぞれの家庭を信者さんと回ります。夜はミサと講話があり一週間続きました。日曜日のミサで締めくくりし、一人一人に十字架がおくられました。



この次は4月の27日から家庭のために行なわれます。ちなみに私は主任司祭と日本人の家庭を訪問しました。カトリック信者はとても少なく、何年も教会で日本人の姿を見かけたことがないと言していました。灰の水曜日に5人の方がミサに来てくださいました。皆大喜びで写真を撮ったりしていました。また、教会に戻ってきて欲しいと思います。私もここで何が出来るかわかりませんが、あせらず、頑張ってみたいと思います。

.....

ハイチ ◆カパイシャン◆

大統領に反対する人々

レデンプトリスチント修道会 飯 村 美紀子

先日、無事に「きずな」やカトリックの雑誌、「心のともしび」など届きました。お礼が大変に遅れまして申し訳ございません。

実はこちらでは、大統領就任記念日に向けて、反対派のグループによる抗議デモ、道路封鎖、投石、商店街の破壊などが行われ、この騒ぎは、まだ完全には終わっておりません。一時は危険で学校も封鎖、商店や銀行も、さらに大使館も閉鎖に追い込まれました。従って日常品や食料品等も入荷が完全にストップになり、ちょっと心配な思いもしました。という状況下で、インターネットも数週間使用できない状態になりました。そして、ハイチとカナダ間を結ぶエア・カナダは、4月末まで運行停止を発表したのです。

私の住んでいる修道院は高台にあります。銃声、催涙ガスの匂い、そして、人々の叫ぶ声などもよく聞え、道路封鎖のために燃やすタイ

ヤの煙などで町は霞がかかったような時もありました。幸い現在は幾らか静かになり感謝しております。心静かに四旬節を過ごしたいと思います。

メキシコ ◆ソヤティタン◆

山道、ドロ道を走り回れる車がほしい

ペリス・メルセス宣教修道女会 真神シゲ

いつもありがとうございます。こちらチアバス州カラランサ郡ソヤティタン村に修道院があります。16の集落を抱えています。近いところは、モトタクシーで10分くらい、遠くは、車で1時間、バスだと2時間かかります。主任司祭は、メキシコ人グワダラハラ出身のハビエル神父様で、今年の4月80歳になりました。そのお祝いの休暇中に病気になり、入院、手術となりました。そのため教会の車を使うことができなくなり、専用の車のない不自由さをしっかりと感じている昨今です。教区内の16の集落を回るには車は欠かせません。山道やひどいドロ道を駆け回れる車がほしいです。

ソヤティタンは、病院、銀行、警察、消防所、もちろんマックも、セブンイレブンもスーパー、マーケットもない村です。あるものは、澄み切った青空、緑の山々、サトウキビ畑のさやさやという葉音と、ためらいなく胸いっぱいに入ることの出来る美味しい空気です。

ソヤ修道院には、4人のシスターズが住んでいます。ロサはスペイン人、このソヤで20年近く働いています。この8月から、アメリカとの国境近くで、難民、移住労働者たちのために

働くことになりました。去年世界を騒がせたあの大移動が、今も続いている。ノウリンはフィリピン人、ソヤでの司牧活動、若者・女性の集まり・コムニダ（共同体）代表者の集まり、など典礼司式の全てを担当。車のない今は、テクテクと歩いてコムニダ回りをしています。1日に一つか二つのコムニダしか回れません。ミカはメキシコ人です。ノウリン、真神の理解不十分を補ってくれ、また行政上の問題——ここは、マヤ原住民の多くが住んでる地区ですが、メキシコの行政から疎外されています。サバチスター運動発祥の地です。ですから日常生活に起る大きな問題、小さな事柄、なんでも相談を引き受けて働いています。月に何回かのコムニダ訪問は大切で、大事な仕事です。コムニダの後ろだての教会を知らしめるためです。日本人の真神はソヤに住んで7年、葉草畑作りを手探りで始め、ずっと続けています。80歳からの畑仕事、この先どうなるでしょうか？

車を購入するための申請をさせていただくつもりです。よろしくお願ひいたします。



シェラレオネ ◆ルンサ◆

修道誓願 50 周年感謝のミサ

御聖体の宣教クララ修道会 白 幡 和 子

海外宣教者を支援する会のみなさま ご無沙汰いたしました。インターネットの具合がよくなくて、いつでも mail を送れる状態ではありません。今度こそはそちらに着きますように、祈りながらこれを書いています。日ごろの皆様のお祈りとたくさんのお仕事のご苦労に感謝申

し上げます。

3月9日にシェラレオネ、ルンサのカトリック教会で、もう一人のメキシコのシスターと二人の修道誓願 50 周年の感謝のごミサが行なわれました。司教様、司祭方、修道者の皆さん、多くの信徒の方々をお迎えして行なわれました。ただただ神様の限りない御憐れみと、数えきれない方々のお祈りと尊い犠牲のおかげであると、改めてお礼申し上げます。大好きなアフリカでの生活ですから、50年は私にとって余り長く感じられませんが、学校や道で会う人々



シスター白幡は、修道誓願 50 周年記念の年を迎えるされました。



上の写真の中央は、マドレ・マルタ
エルナンデス クララ修道会総長。
右の2枚は3月9日にルンサの教会
で行われた50周年記念ミサのようす。
感謝の祈りを捧げるシスター白幡。

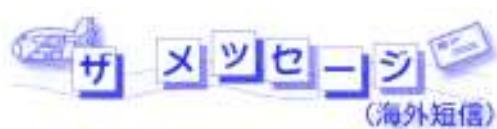


「ともに歩む会」会報より

から、シスターが来た時、私たちはまだ小さかつたなどと言われると、やはり年月の長さを思います。一緒に過ごしたシスターたちの寛大さと忍耐にも感謝です。

ちょうどローマから総長と総評議員の一人のシスターも来ていて、二重の喜びを味わいました。ごミサのあと中学校のホールで一緒に

食事をしながら、幼稚園、小学校、中学校、vocational center、イタリアとメキシコのvolunteerの方たちの踊りなども披露されました。残された期間をただ感謝と奉仕に徹底して過ごすことができるお恵みを願い、これからも皆さまのお祈りで支えていただきたく、お願ひ申し上げます。心からの感謝とともに。



* メキシコ チアパス

ペリス・メルセス宣教修道女会 真神シゲ
3月3日にカレンダーなど受け取りました。感謝です。神学生への授業が始まりました。今年の生徒の皆さんには、日本の文化に興味津々、熱心です。「きずな」とカレンダーを持って授業に行く日を楽しみにしています！



●教会で目にした「きずな」146号、巻頭言におなつかしい聖心会のSr.井上のお名前を見て、

思わず手に取りました。お変わりないご活躍をお祈りしております。

(広島県福山市 田中美緒子)

●「きずな」をお送りくださってありがとう！
Sr.比護の記事は懐かしかったです。1954年から55年にケルン大司教フリングス枢機卿が上智大学に来られたことを思い出しました。

(愛知県名古屋市 布池教会 平澤忠雄)

●いつも「きずな」を読ませていただいています。
宣教者の皆様、海外でのご活躍ご苦労さまです。
神様のより豊かな祝福と恵みを祈ります。

(東京都中野区 ベタニア修道女会本部修道院)

●今年孫が二人生まれました。海外の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

(福岡県福岡市 長谷川千恵)



事務局訪問の宣教者

2019年2月26日 ————— インド



メディカル・ミッション・シスターズ (MMS)

Sr. 延江由美子

事務局を訪問できて大変嬉しいです。今まで撮りためた写真と文章で綴った本「行雲

流水—インド北東部への旅」を置いて参ります。
大学の獣医学部在学中に洗礼を受け、インド・カルカッタで、マザー・テレサの医療活動に感銘をうけました。大学院修了後にアメリカに行き1995年にメディカル・ミッション・シスターズに入会し世界各地で活動しています。

東日本大震災 復興・支援活動ニュースから

東日本大震災から丸 8 年となった 3 月 11 日、今年も被災地のみならず日本各地、世界各地で追悼と復興の祈りが捧げられました。仙台教区サポートセンターから送られてくるニュースレターの中から、一部をご紹介します。

8 年目の 3.11 は朝から激しい雨が降っていました。月曜日でもあり、どれだけの参加があるかと心配していた元寺小路教会には、午後から人々が集まり、最終的に 160 名の参加がありました。平賀徹夫仙台司教と 8 人の司祭が共にミサを捧げました。

2 時 30 分に司祭の入堂後、静かにパイプオルガンが流れ、2 時 46 分の弔鐘で全員起立して黙祷を捧げました。平賀司教はまず「東日本大震災から 8 年を迎えるにあたり、思いを同じくするすべての人と心を合わせて、犠牲となった方々をしのび、慰めと希望、そして復興に向けての知恵と勇気を求めてこの感謝の祭儀を捧げましょう」と参列者を祈りに誘いました。福音朗読の後、神田裕神父（神戸・鷹取教会で被災）は、ご自身の阪神・淡路大震災での体験を踏まえ、参列者を励ましてくださいました。心を打つお話がたくさんありましたが、これから私たちが考えていかなくてはならない「国籍」や「多文化」の交流についても言及されていました。最後に 1998 年に震災を生きる宗教者有志によって出された「いのり追悼と新生—宗教者による神戸メッセージ」が読みました。



同じく 3 月 11 日には午後 5 時に、バチカンの聖ペトロ大聖堂の司教座祭壇でも追悼のミサが捧げられました。アンジェロ・コマストリ枢機卿と、震災時に仙台にいらっしゃったホセ・アルフレド・ゴンザレス神父（グアダルペ宣教会）を含む 7 名の司祭が共同司式しました。ローマ在住の日本人力トリック関係者や宣教者、修道者、司祭合わせて 300 名の人々が参列しました。説教では永井隆博士が紹介されたほか、共同祈願はイタリア語と日本語で行なわれました。



新入会員

(敬称略)

個人会員 7名

若林 伸子（神奈川県横浜市） 井手 テル子（福岡県福岡市） 永原 由美子（神奈川県茅ヶ崎市）
鈴木 英子（東京都目黒区） 杉原 克子（東京都板橋区） 田中 美緒子（広島県福山市）
原 桂子（福岡県福岡市）

事務局より

- *間もなく梅雨入りでしょうか？皆様、体調を崩されませんように！
- *いつものように未使用の切手や書き損じのハガキをお送りください。通信費として大切に使わせていただきます。海外の宣教者への送付物用に使用いたします。
- *「きずな」へのご質問、ご要望などございましたら、ぜひお寄せください。
- *新しい元号「令和」になり、一層前向きにさまざまな事に取り組んで参りたいと思います。

編集後記

- ◇元号が変わってひと月経ちました。新元号にかける思いを胸に、皆それぞれに心新たなる日々を送っていらっしゃることでしょう。この機会に「万葉集」を、いや日本の古典文学をひもといた方もおりでしょう。
- ◇皇居の一般参賀に、生まれて初めて参加、14万1,130人の一人として長和殿の広場に佇みました。何時間も待たされたのに、だれもが晴れ晴れとした表情でしたし、若い世代、家族の参加が多いのにちょっと驚きました。平凡ながら世界各地で起きている紛争や、地球規模の異常気象を思い浮かべながら、平和と平穏を願いました。（す）

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112

日本カトリック海外宣教者を支援する会

・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会